

平成21年度学校体育振興事業

「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」

研究報告書

ふりがな	とくしましかみはちまんちゆうがっこう
学校名	徳島市上八万中学校

校長名：五寶 友哉

所在地：徳島県徳島市下町本丁131

電話番号：088-644-0050

相撲未経験の保健体育教師による相撲授業の進め方に関する研究

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は徳島市の南西部に位置し、鮎喰川流域と園瀬川流域に開けた農村地帯の一宮地区・上八万地区に阿波一宮城跡や弥生時代の遺跡がある。近年では宅地造成によって都市化が進んでいる。この地域は古くから相撲が盛んで、町内にはたくさんの相撲関係の歴史書物等があり、相撲場も本校に昭和51年11月に建設された。当時は、たくさんの生徒が相撲に取り組み、各種大会に出場していた。相撲場は、体育館の全面改築に伴い、取り壊されている状況である。そのため、相撲の授業は、体育館で簡易マットを利用して行っている。

本校の生徒は規範意識が高く、素朴で充実した学校生活を送っている。しかし、受動的な傾向も見られる。

2 学校の概要（平成21年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
学級数	3	3	3	2	11	
生徒数	男	39	43	48	2	132
	女	34	42	51	0	127

教員数24名（保健体育科2名）

武道・ダンスの授業の状況

領域:武道 領域の内容:相撲

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	12	12	12	12	48	
担当教員数	2	2	2	2	8	
(外部指導者)	0	0	(1)	0	(1)	
生徒数	男	39	43	48	2	132
	女	34	42	51	0	127

領域:ダンス 領域の内容:現代的なリズムのダンス

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	12	12	12	12	48	
担当教員数	2	2	2	2	8	
(外部指導者)	0	0	0	0	0	
生徒数	男	39	43	48	2	132
	女	34	42	51	0	127

II 研究の内容及び成果等

【研究成果の要点】

本研究を行うに当たって、相撲未経験の教師が相撲の授業をどのように進めていくか、どの場面で子ども達の活動のサポートをしていくかを事前に話し合っておくことが重要であると感じた。校内で共通理解を図ったことは、子ども達が「相撲は楽しい」と感じるような授業展開を外部指導者と連携し、実践しようとしたことである。基本動作の段階でも簡易なゲームを経験することにより、生徒達は楽しく、生き生きと活動できたと思われる。教師が考えている以上に生徒達にとって「相撲」は未知の物であり、簡易な試合でも体験することにより、十分楽しんで活動できるということを実感した。また、礼法についても、授業前後の挨拶時のみに簡易化することにより、抵抗なく自然にできるようになった。そして、蹲踞・塵浄水などの礼法作法を通して「日本文化としての相撲道」に触れることができたと考えられる。

1 研究主題等

(1) 研究主題

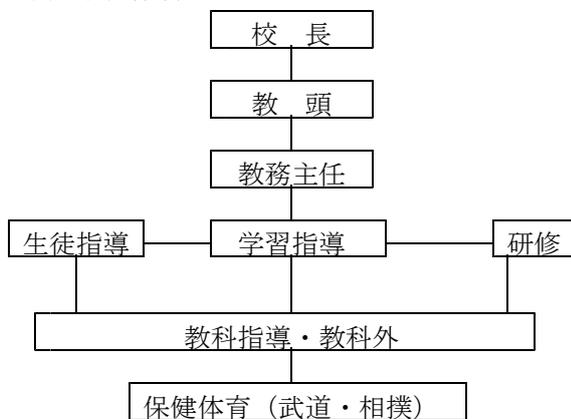
外部指導者と連携した、相撲未経験の保健

## 体育教師による相撲授業の進め方

### (2) 研究主題設定のねらい

本校の保健体育科の教師は2名である。相撲に関しては2名とも未経験で、知識・理解も十分ではない。このような中で生徒達に相撲の楽しさや技を指導するには、どのような授業展開や進め方があるのか、また実際に授業を進めていく中で改善が必要なところはどこか等を明らかにするために、本主題を設定した。

### (3) 取組体制



### (4) 主な取組

平成21年度	相撲の授業は、校内行事や時期を考慮し、11月中旬から開始することとした。 保健体育教師が相撲専門外のため、外部指導者の意見を聞き、授業の進め方等の研究をしていくことにした。初年度は外部指導者に授業等に来ていただき、相撲の基本動作や基本となる技の指導を受けた教師が、外部指導者とともに授業に進めていくことにした。基本に重点を置きながらも、相撲の楽しさを感じるような内容にしていくことを確認しあった。
--------	---

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 相撲未経験の保健体育教師による相撲授業の進め方

#### (2) 取組

相撲未経験の保健体育教師がどのような授業を進めていくか、具体的には、「相撲の持

つ特性や基本動作・基本となる技を限られた時間の中で指導し、生徒に楽しさを感じられる学習をさせるか」を研究のねらいとした。そこで、専門的な知識を有する外部指導者を招き相撲について指導を受けた。生徒達は、相撲未経験者ばかりなので基本動作や礼法、受け身の重要性等をわかりやすく指導していただき、授業に対して積極的に取り組むことができた。また、教師間で毎時間の授業のねらいを話し合い、共有しながら進めた。

### (3) 成果・課題

本年度は相撲の授業を実施する初年度ということもあり、相撲を授業で初めて体験する生徒がほとんどであった。授業開始前からあまり乗り気でなく、まわしをつけて行うことも恥ずかしさから抵抗があった。しかし、いざ開始してみると「意外におもしろい」「相撲は楽しい」との意見が多く、まわしもスムーズにつけていた。また、外部指導者を招いての授業においては、相撲の練習方法等を生徒達から質問するなど積極的に取り組むことができた。特に礼法や基本動作については、きめ細かく指導していただき、授業を展開していく上で非常に参考になった。

課題としては、まわしをつけるためにかかなりの時間を要するので、簡易まわしを付けての授業を行った。そのために「押し」中心の授業内容になってしまった。女子については、まわしをつけて授業を行うことは、非常に難しいと感じた。

## 3 研究成果の普及

研究成果の普及としては、外部指導者として県教育委員会から相撲連盟の有段者を派遣していただき、連盟と共通理解を図ることができた。また、徳島県中学校研究大会保健体育部会で相撲授業の取組について話し合い、研修を図った。

## 4 今後の展望

来年度も相撲の授業を実施するが、より内容の濃いものにする道筋が見えてきた。また、誰にでも指導できるようにするために、相撲の基



今日の体育で相撲の回しを  
けてみて入で捲くのは  
きいなと思っただけ  
はなつたと思つた。

体育  
今日、体育のすもうで  
あつた。もうものをつける  
多きました。まわしは、長くて  
重かたです。

生徒の感想は、最初は少し乗り気ではなかつたが、実際にやり始めるとおもしろいという感想が多かった。柔軟性に欠ける生徒も多く、けが等の事故防止のためにも、受け身を十分指導していくことが重要であると実感した。